

# 令和7年度学校教育自己診断評価アンケート

富田林市市立向陽台小学校

## 【保護者アンケートより】

### はじめに

保護者の皆様におかれましては、ご多用の中にもかかわらず、本アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。今年度は、皆様のご協力のおかげで274世帯中248人、90.5%の方にご回答いただきました。学校をより良くするために多くの方にご協力いただけたこと改めてお礼申し上げます。（昨年度：282世帯中241世帯、85%の方のご意見）

今年度より回答欄に「わからない」という選択肢をもうけました。より実態に近いご意見をいただけたと思っています。しかしながら、選択肢をかえたことにより経年比較することは今年度はできておりません。一つ一つの回答について、詳しく分析したいと思います。

昨年度より自由記述欄を設けています。記述によるご回答いただいたことでより具体的に検討することができるようになりました。次年度すぐの実現することが難しいものや相反するご意見、学校単位では改善しにくい課題もごございます。しかし、教職員では、共有し少しでも改善していけるように検討させていただきます。

皆様からいただいた回答を分析しましたところ、多くの項目で肯定的な評価をいただきました。特に本校が大切にしている「子どもたちの安心・安全」や「子ども成長ファーストの考え方」についても、ご支持をいただいていることが確認できました。以下にその主な内容をご報告させていただきます。

## 1. 継続すべき肯定的な評価

### 1. 学校生活の楽しさ

子どもたちが日々の学校生活を楽しく送れていることは、私共にとっても何よりの喜びです。アンケートの結果、全学年を通して「学校生活が楽しい」という回答が非常に高い水準となりました。特に1年生（70.7%）、4年生（63.2%）、6年生（61.9%）では「そう思う」と強く実感していただいております。子どもたちが毎日前向きに登校できている様子がデータからも伺えます。

### 2. 指導体制について

複数の教員で見守る指導体制についても、多くのご支持をいただきました。

多角的な指導の推進： 担任以外の教員が授業に携わる体制（専科指導等）については、5年生（83.9%）や2年生（75.7%）をはじめ、全項目の中で最も高い肯定率を記録いたしました。

対応について： 「一人ひとりを大切にした指導」についても、ほぼ全ての学年で8割から9割の方から肯定的な回答をいただきました。

相談環境： 学校が「気軽に相談できる雰囲気である」と感じておられる方も多く、大変心強く感じております。

### 3. ICT活用と教育環境の現代化

タブレット端末の活用や、学校からの情報発信のデジタル化についても、時代の変化に合わせた取り組みとして高く評価していただきました。

ICT教育の浸透： 授業や家庭学習でのタブレット活用に対し、肯定的な回答が全学年で9割を超えました。しかし、紙媒体で「書く」ということも大切な活動としてバランスを大切に指導してまいります。

情報共有： 学校からのメール配信や文書についても、特に低学年の保護者の皆様を中心に「適切である」との評価をいただいております。今後も正確で迅速な情報発信に努めてまいります。

### 4. 体力向上と豊かな心を育む体験学習

「持久走」や「なわとび」などの体力づくり、そして「社会見学」や「行事」を通じた体験学習についても、良好な評価をいただいております。

2年生（59.5%）や6年生（57.1%）をはじめとして体を動かす喜びや実体験を通じた学びが大切であると再認識できました。

### 5. 家庭・学校の連携

最後に、学校での出来事をご家庭で共有し、共に子どもを育てようとする皆様の姿勢に深く感謝申し上げます。

ご家庭での対話： 8割を超えるご家庭で、毎日学校での出来事についてお話しいただいております。皆様の教育に対する関心の高さが伺えました。

トラブルを成長の糧に： 子ども同士のトラブルなどが生じた際も、それを成長につなげようとする学校の方針に対し、約9割もの皆様から共感をいただきました。

#### —自由記述欄より—

○学校生活・教職員について

どの先生も優しく丁寧に接しており、一人ひとりを大切に指導してくれている。担任の先生への信頼が厚く、子どもが「先生大好き」と言っている。

校長、教頭、担任など、誰にでも相談できる雰囲気作りがなされており、トラブル時も迅速に対応してもらえる。

先生が休み時間まで含めて安心できる環境を作ってくれているおかげで、子どもの心が安定し、失敗を認めて次を考える力が育っている。

○具体的な教育活動

持久走、縄跳び、向陽っ子体操など、体を動かす機会が確保されている。表彰状の授与なども子どもの意欲に繋がっている。

国際交流授業、きょうだい学年遊び、体験学習、社会見学など、実体験を伴う授業が充実している。

授業についていきにくい生徒へのフォロー（金曜のまなびタイム、少人数クラス）が機能している。

残さず食べる工夫など、食材を大切に作る意識が育っている。

## ○学校運営

登校前の校長先生や見守り隊による安全確認により、安心して通わせてられている。

5年生が校長先生に提案して休み時間の体育館利用が改善された事例など、子どもの意見を汲み取る姿勢が評価されている。

# 2. 改善を要する意見・要望

先ほどの肯定的な評価を励みにする一方で、今回のアンケートでは、本校が真摯に向き合い、改善していかなければならない課題も明確になりました。

特に「あまりそう思わない」「わからない」と回答された皆様のお声を重く受け止め、今後の教育活動に反映させていく所存です。以下に、主な課題点をご報告いたします。

## 1. 高学年における授業の理解度と学力向上の実感

学年が上がるにつれて学習内容が高度になる中、授業の分かりやすさや学力向上の手応えについて、よりきめ細かな対応を求めるお声をいただきました。

課題： 4年生から6年生にかけて、授業の理解度（Q3）や、学校の学力向上への工夫（Q8）に対して「実感が得られにくい」という傾向が見受けられました。

対応： 本校の取り組みが、単なる形式に留まらず、お子様お一人おひとりの確かな学力向上に繋がっているか、授業の進め方や家庭への周知方法を再検討してまいります。

## 2. いじめ防止と人権意識の育成に関する「見える化」

お子様の安心・安全を守る取組について、より具体的な情報発信が必要であると認識しております。

課題： 1年生において「取組がよくわからない」というお声があり、入学初期における周知不足が伺えました。また、高学年では交友関係が複雑になる時期特有のトラブル対応について、不安を感じておられる傾向がございます。

対応： 学校がどのような方針でいじめ防止や人権指導を行っているのか、日々の指導の様子を定期的にお伝えし、ご家庭との共通理解を深めてまいります。

## 3. 学校の相談体制と信頼関係の構築

「気軽に相談できる雰囲気」を目指しておりますが、依然として心理的な距離を感じておられるご家庭が存在することを真摯に受け止めております。

課題： 各学年において、相談体制に対して壁を感じているという回答が一部で見られました。特に高学年において評価が分かれており、信頼関係の構築に個人差が出ていることが課題です。

対応： どのご家庭にとっても、学校がより開かれた存在であるよう、職員の対応の向上や相談機会の確保に努めてまいります。

## 4. 通知表について

評価の透明性や、学校からの情報発信の一貫性についても、さらなる改善を求めるお声をいただきました。

課題： 通知表（Q7）において「適切に評価されているか」という点や、学校からの情報共有（Q5）について、十分ではないと感じておられるご意見が散見されました。

対応： 評価の根拠や基準について、より分かりやすい説明を心がけます。学校からの連絡事項が確実にお手元に届き、ご納得いただけるような運用の見直しを進めます。

## 5. 多様な児童に配慮した体力向上の取り組み

体力向上の活動（Q9）についても、全員が満足できる形を目指す必要があります。

課題： 一部の学年において、運動を苦手とするお子様や、特定の活動（持久走等）に偏りを感じておられる層に対し、配慮が十分でない可能性が示唆されました。

対応： 子どもたちの体力や意欲は多様であることを念頭に、全てのお子様自身の成長を実感できるような、幅の広い取り組みを検討してまいります。

### —自由記述欄より—

#### ○学習・指導体制について

通常の教室での授業と内容や進度に差が感じられず、移動や慣れない先生による心理的負担の方が大きいのではないかという疑問。

タブレット学習は楽しい反面、「書く作業」が減ることで学力の定着に不安を感じる。

自分で考え行動する力を養うため、総合的な学習の時間をもっと充実させてほしい。

読解力の向上につながる授業や、低学年での質問しやすい補助体制（補助教員の増員など）の要望。

#### ○施設・環境・安全について

防犯・安全の観点から、教室の施設管理について再検討してほしい。

席の場所による寒暖差が激しいため、単純な室温設定だけでなく、体調管理や集中力維持を考慮した柔軟な運用を希望。

児童への対応（優先順位や連絡の有無）が先生によって異なるため、ルールの統一を望む。

ボール遊びができる環境を整えてほしい。

#### ○連絡・運営・その他

アプリ配信だけでなく、紙での配布（学年だより等）も併用してほしい。アプリ内での資料の探しにくさへの指摘。

運動会の半日開催化や連合運動会の中止を残念に感じており、一致団結する機会を求めている。

児童間のトラブル（乱暴な言葉や行為）への不安があり、よりきめ細かな見守りと学年更新時の確実な引き継ぎを希望。

健全な教育のため、先生方が精神的ゆとりを持って働ける環境作りにも注力してほしい。

## まとめ：本校が重点的に取り組むべきポイント

今回のアンケートを通じ、本校は以下の3点を重点課題として取り組んでまいります。

中・高学年における学習指導の質向上： 学力が定着するよう、授業改善と家庭学習との連携を強化します。

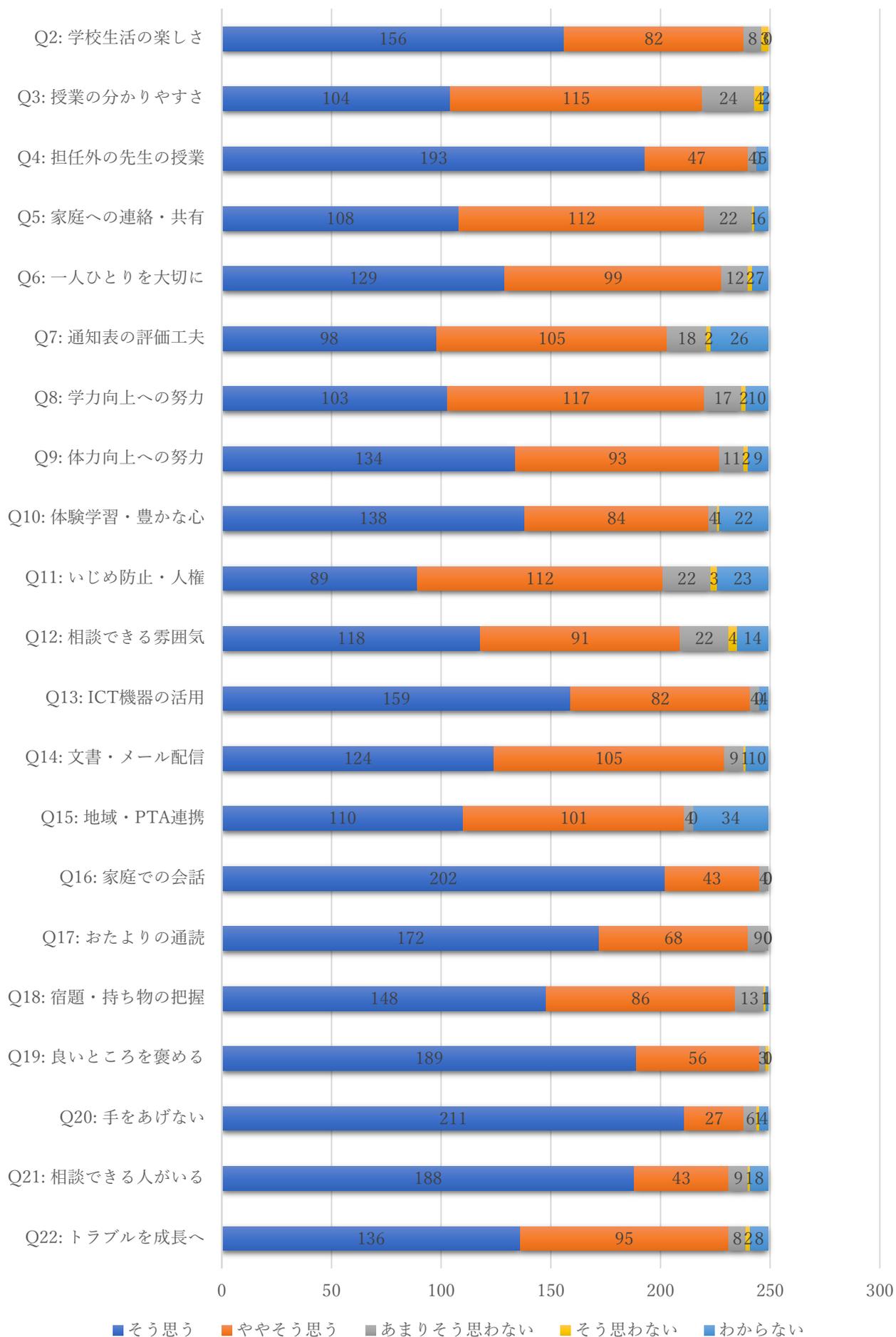
取り組みの可視化： 特に「いじめ防止」や「学力向上」など、目に見えにくい活動について、積極的な発信に努めます。

一貫性のある誠実な情報共有： 評価基準や連絡のあり方において、保護者の皆様が確信を持てるような説明責任を果たします。

今回の結果を受け、本校は「子どもたちが安心して楽しく学べる学校。家庭と協働し子どもの成長第一にできる学校」として、さらに歩みを進めてまいります。いただいた信頼を大切に、改善を要する点についても真摯に向き合い、教育環境の向上に邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 令和7年度 学校教育自己診断アンケート結果(保護者)



## 【児童アンケートより】

### はじめに

児童アンケートから、子どもたちの学校生活や学習に対する率直な思いが見えてまいりましたので、皆様と共有させていただきます。

### 1、タブレット学習と前向きな姿勢のつながり

今回の結果で嬉しかったのは、学校行事やタブレットを活用した授業を「楽しい」と感じているお子様が非常に多いことです。タブレット学習を楽しんでいる子は、すすんで授業に参加し、家庭での宿題にも前向きに取り組むという傾向が見られました。

### 2、学習への自信と、生活習慣・自己肯定感の関係

一方で、学習に苦手意識がある児童は、タブレット学習や日々の授業そのものにも少し後ろ向きになっており、宿題にも十分に取り組めていない傾向があります。そして、こうした状況は、生活リズムの乱れや、ご家庭での会話の少なさ、さらには「自分のことがすきだ」という自己肯定感の低さとも関係が深いことが分かりました。

特に「自己肯定感」につきましては、小学生においては一般的に学年が上がるにつれて低下しがちであり、本校でも高学年になるほど自信を持ってないお子様が增える傾向が見受けられました。

学校としては、お子様の「できた・できない」という結果だけを見るのではなく、「やってみよう」と取り組もうとした過程（プロセス）をしっかりと認め、応援することを大切にしていきたいと考えております。学習面で自信を持ってないお子様にとっても、学校が少しでも「安心できる、楽しい場所」となるよう、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら丁寧に取り組んでまいります。

### 3、先生への信頼感と「相談しやすさ」について

今回のアンケートでは、教員との関係性についても重要な気付きがありました。「先生はいじめ等に真剣に対応してくれる」と感じている児童が約94%に上る一方で、「先生にいろいろなことを相談できる」と感じている児童は約81%という結果になりました。いじめなどの大きな問題には頼れると感じていても、日々の個人的な相談や、自分の思いを打ち明けることには少しハードルを感じているお子様が一定数いることが分かります。

先生を強く信頼し「相談できる」と答えたお子様は、学校生活全般や友人関係に満足しており、学習意欲も高い傾向にあります。何より「自分のことがすきだ」という自己肯定感をしっかり持っており、自分自身を認められている安心感が、大人（先生）への信頼の土台となっている様子が伺えます。

反対に、先生に少し距離を感じ、「相談しにくい」と答えたお子様には、いくつかの共通する課題が見られました。

自己肯定感の低さ：自分に自信が持てないことが、他者に心を開く壁になっている可能性があります。

自己表現への苦手意識：「授業で自分の考えをはっきり言えるか」という項目にも苦手意識を持っており、自分の思いを外に出すこと自体に困難を感じている様子が読み取れます。

家庭での会話の少なさ：高学年になるほど、ご家庭でのお話の時間が少ないお子様は、比例して先生への相談も難しく感じている傾向があります。

#### 4、学校とご家庭で手を携えて

こうした結果を受け、学校では、相談をためらっている子どもたちに対し、いきなり相談を促すようなことはいたしません。まずは、小さな成長に気づけるよう努力や工夫を認める声かけを行い、「自分のことがすきだ」と思えるような自己肯定感を高めることや、自分の考えを少しずつ表現する練習を積み重ねてまいります。

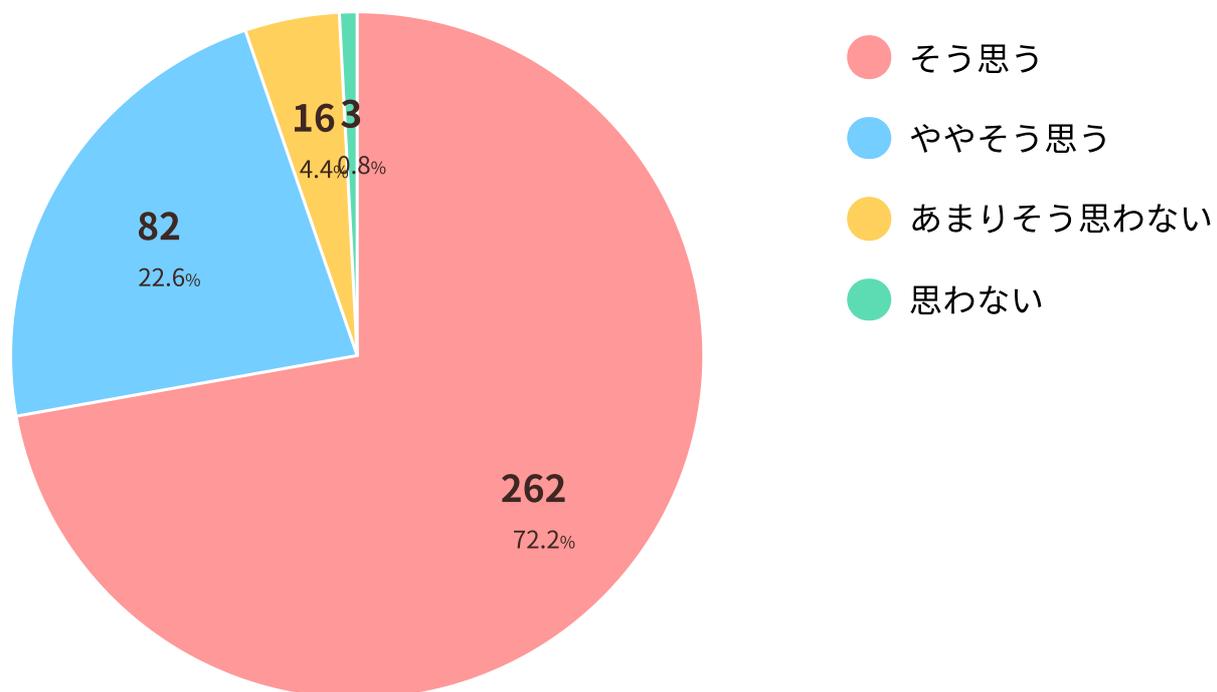
そして、自己肯定感を育むことはもちろん大切ですが、それ以上に「自分は先生から大切にされている」と子どもたち自身が心から感じられる関わりを、私たちはより一層大切にしていきたいと考えております。そうした温かい居場所づくりが結果的に、大人への信頼感や「相談してみよう」という気持ちにつながる一番の近道だと信じています。

ご家庭におかれましても、「早ね・早おき・朝ごはん」といった生活リズムづくりや、日々の出来事をゆったりと語り合う時間をぜひ大切になさってください。結果ではなくがんばった過程を認め、ゆっくりとお話を聞く温かいお声かけが、お子様の安心感と明日への意欲を育むと思われま

す。

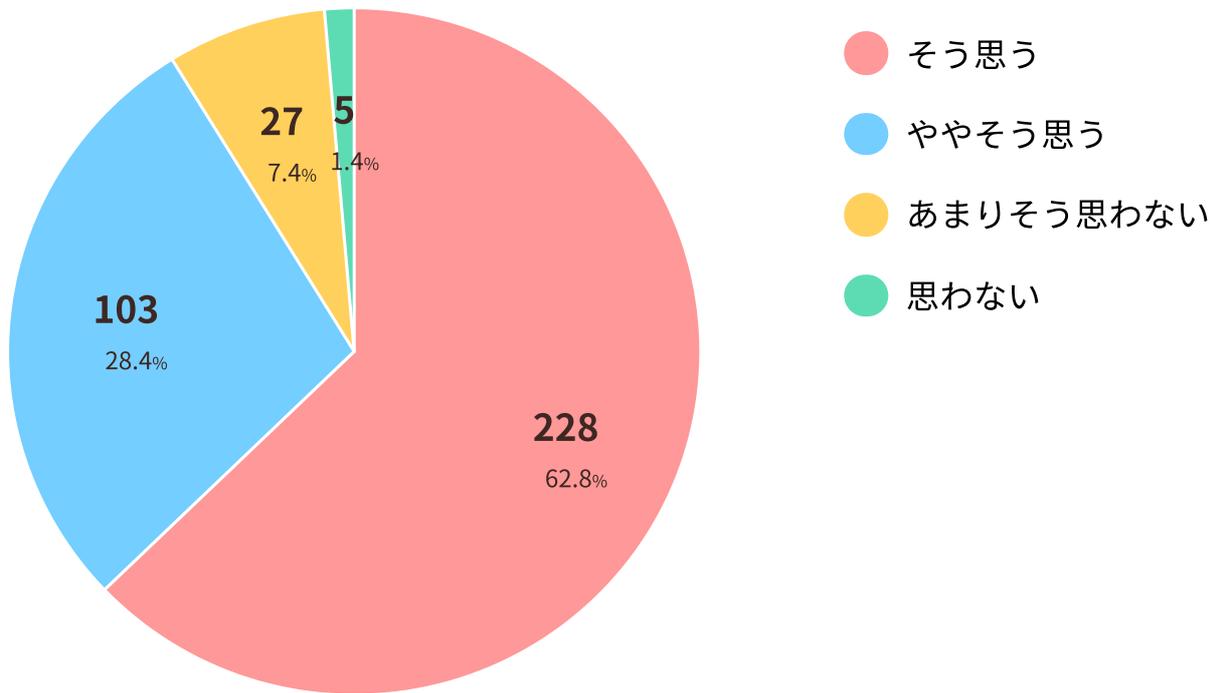
これからも、学校とご家庭で「お子様の成長のために何が大切なのか」ということを考えていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## Q2 学校でのせいかつはたのしい。



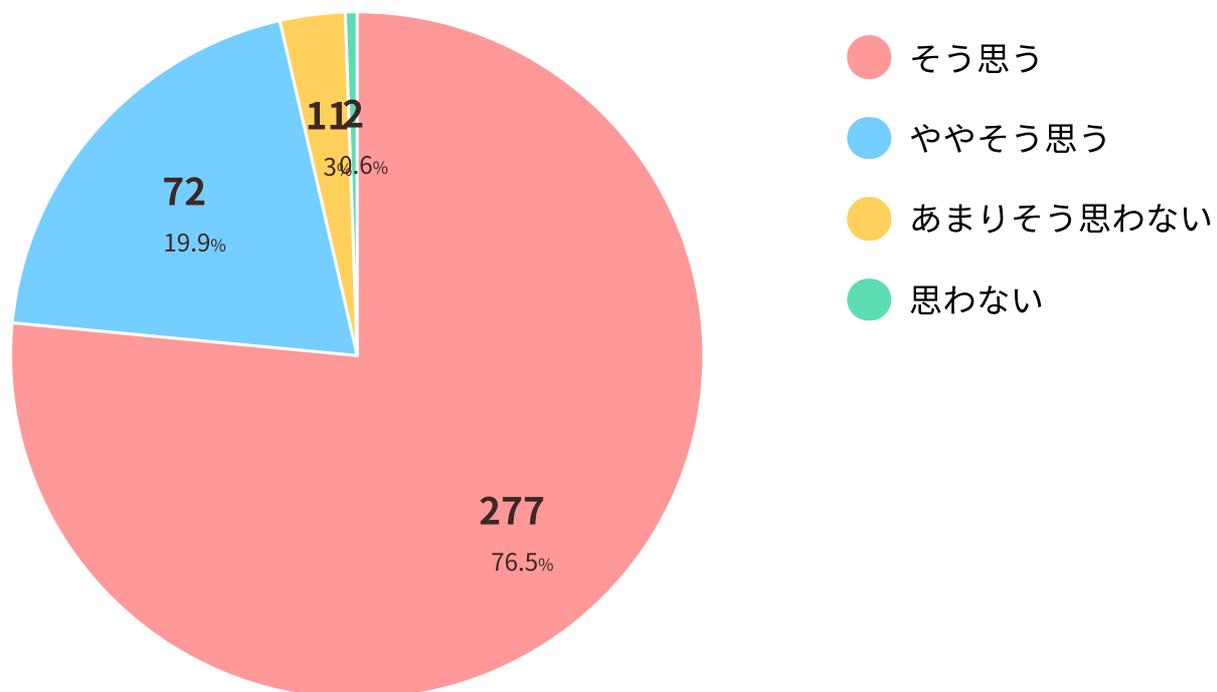
回答者数 363

### Q3 すすんでももだちやしっている人にあいさつができています。



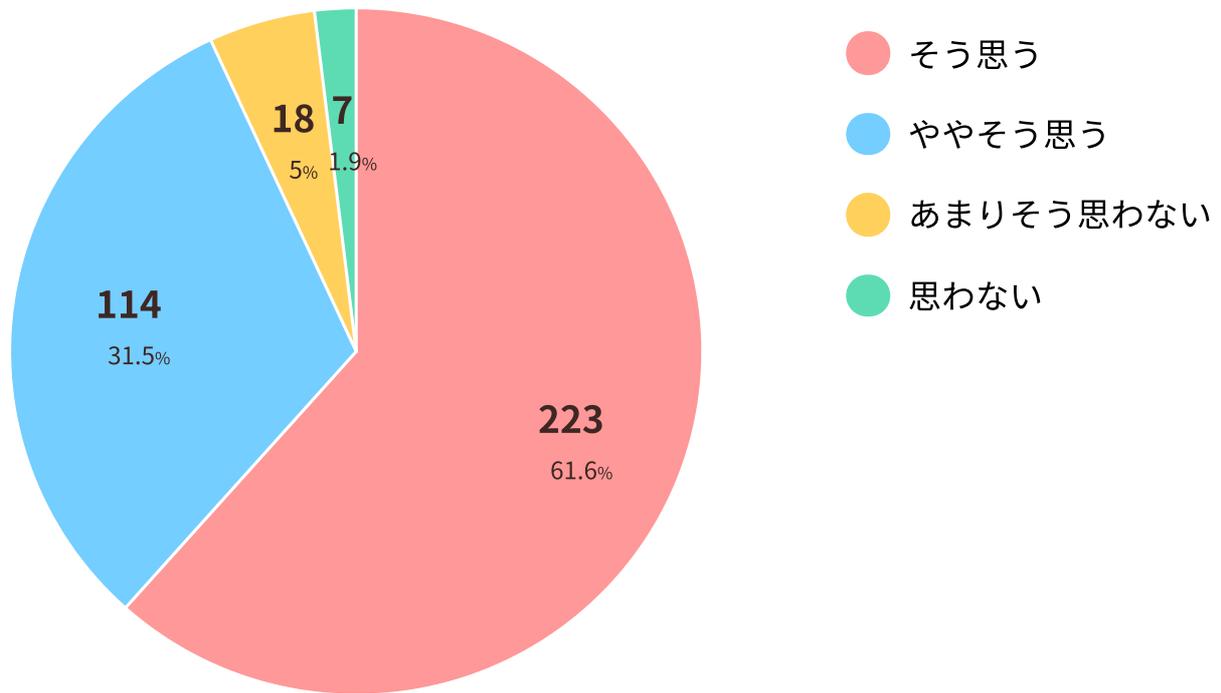
回答者数 363

## Q4 友(とも)だちとなかよくできている。



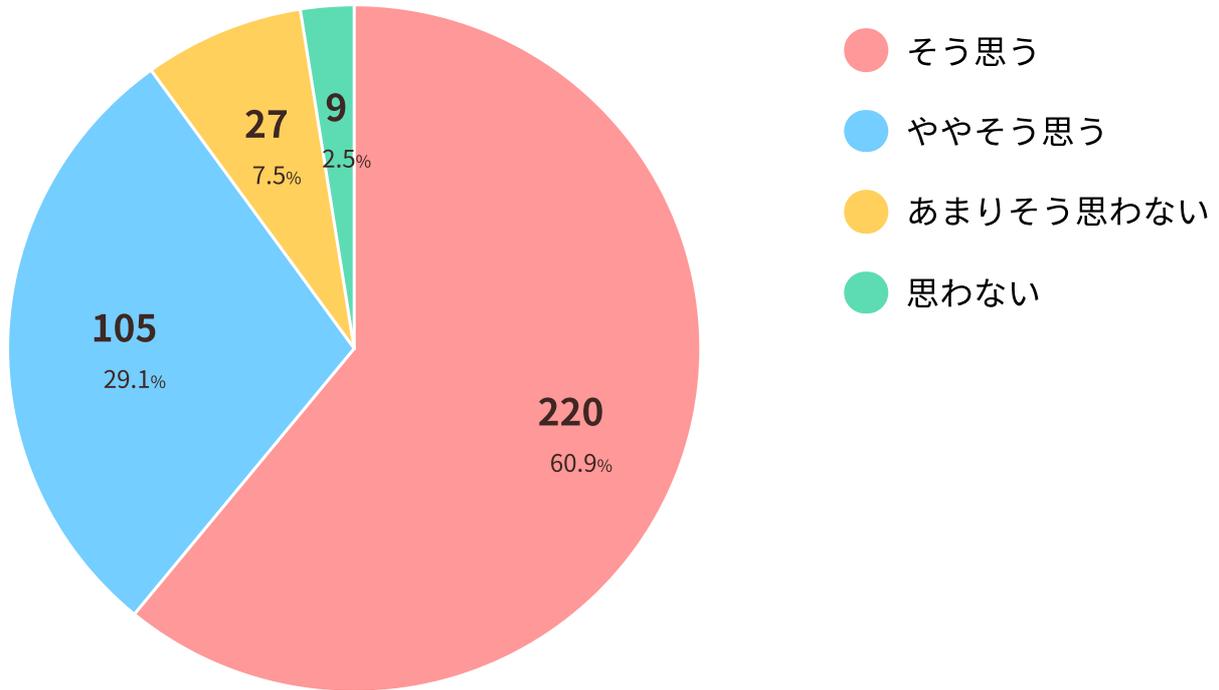
回答者数 362

## Q5 じゅぎょうは、わかりやすくてのしい。



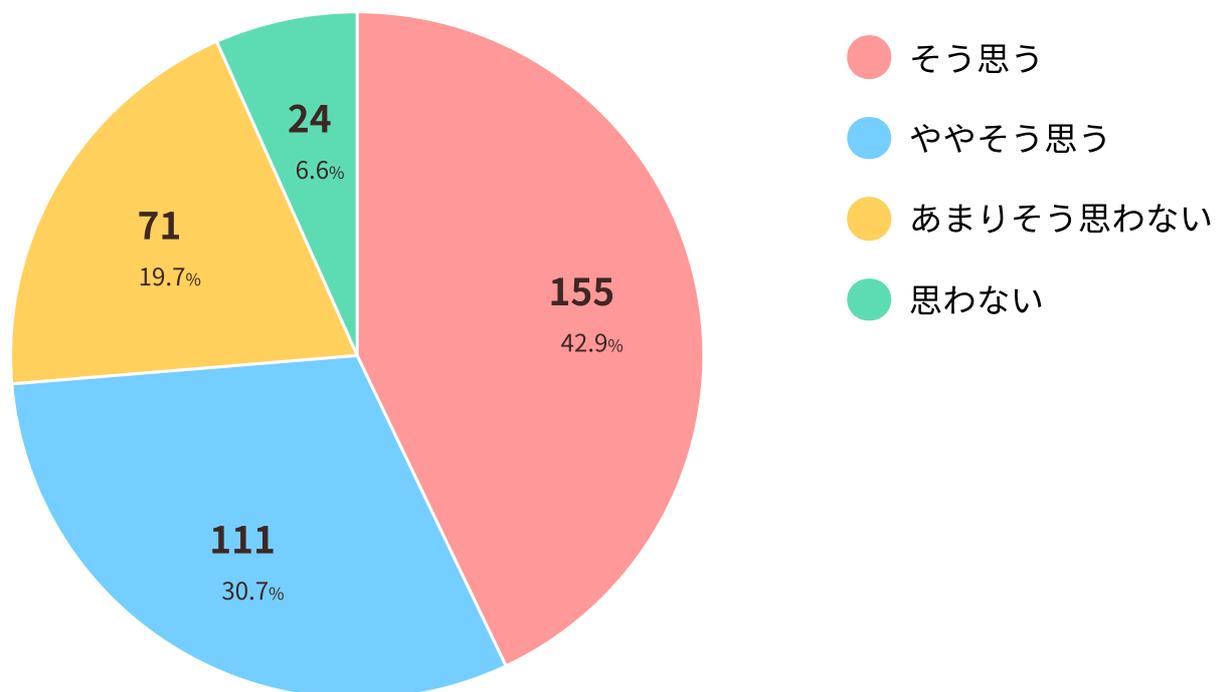
回答者数 362

## Q6 じゅぎょうには、すすんでさんかしている。



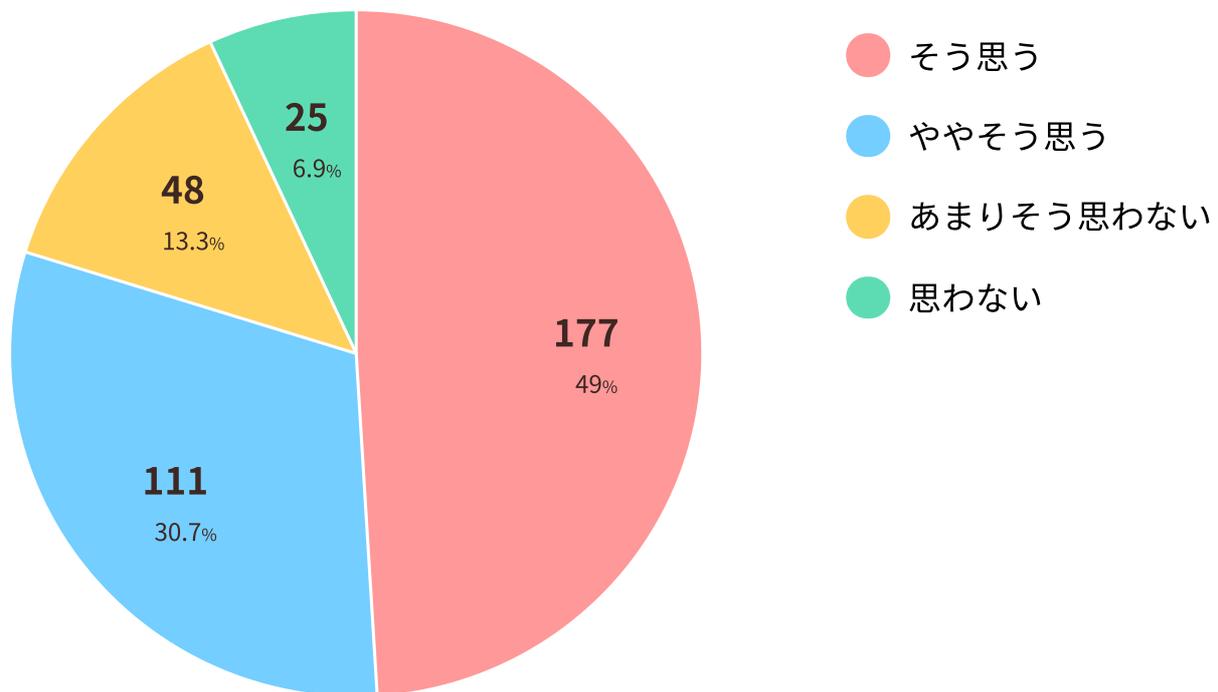
回答者数 361

## Q7 じゅぎょうでは、じぶんのかんがえをはっきりといえる。



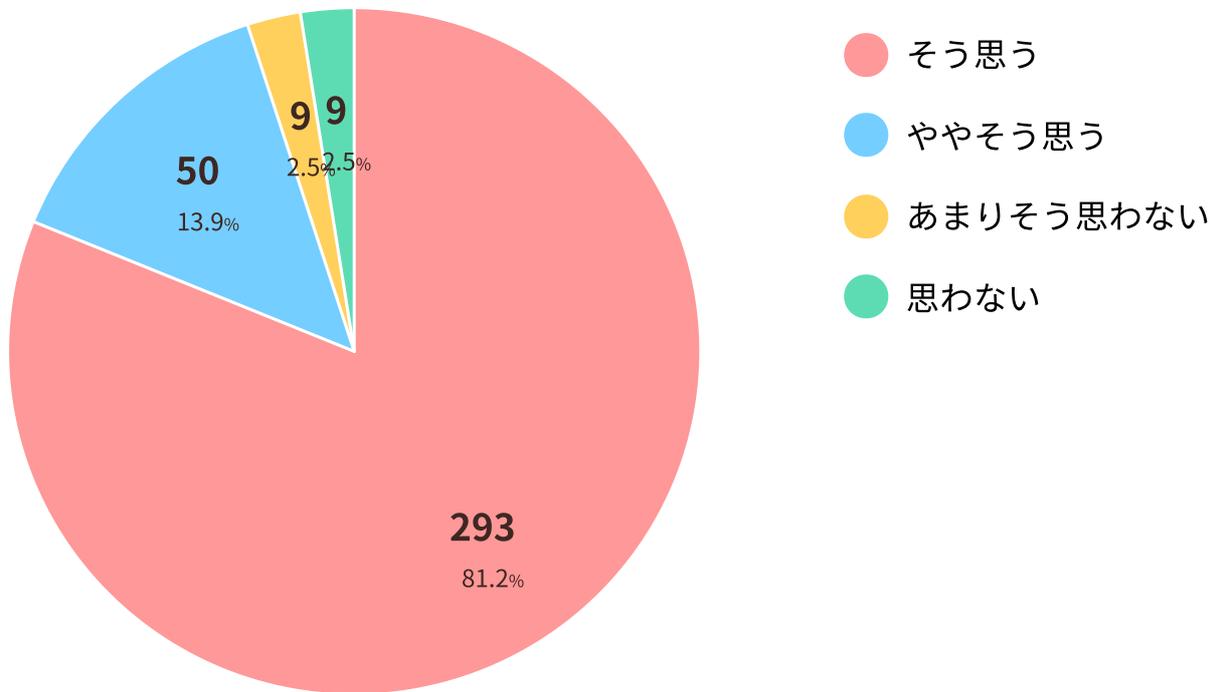
回答者数 361

## Q8 先生たちには、いろいろなことをそうだんできる。



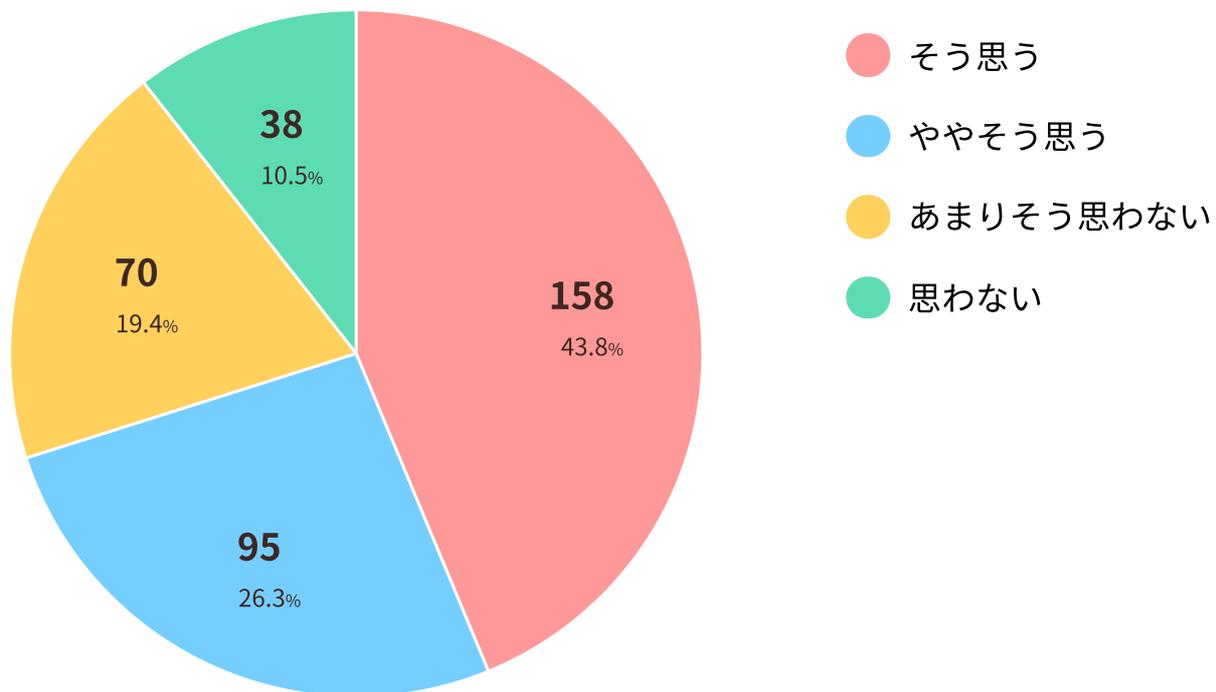
回答者数 361

Q9 先生たちは、いじめなどわたしたちがこまっていることについてしんげんにかんがえてくれる。



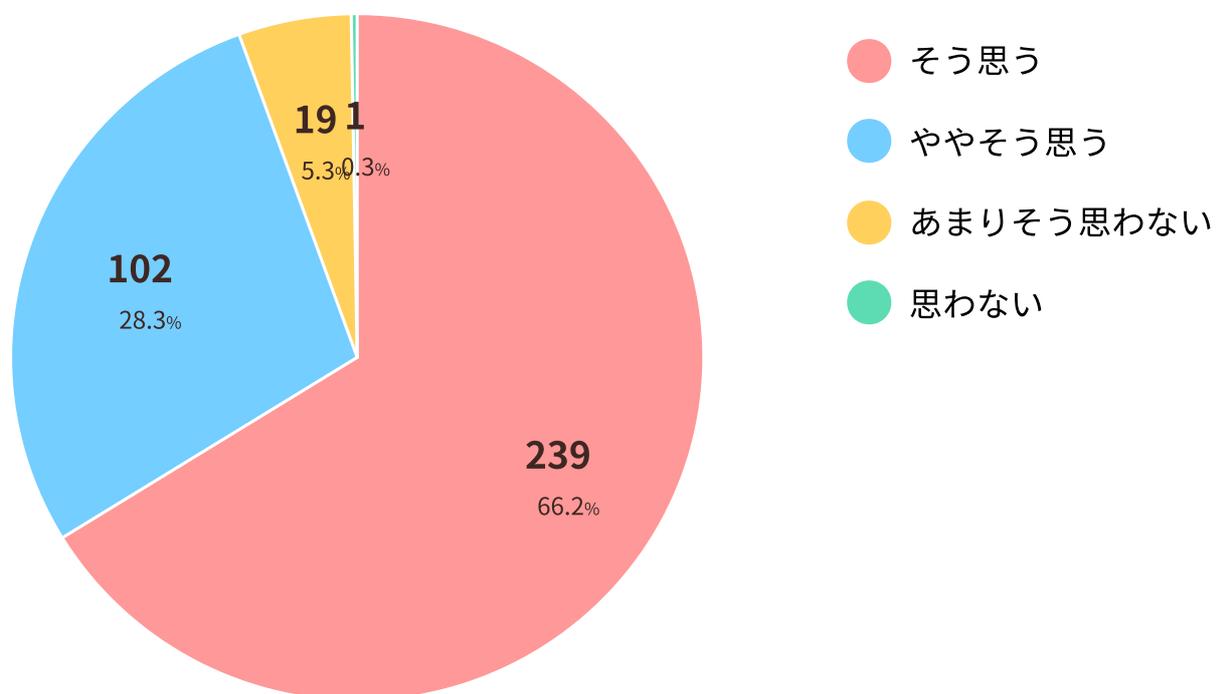
回答者数 361

## Q10 学校やいえでは、すすんで本をよんでいる。



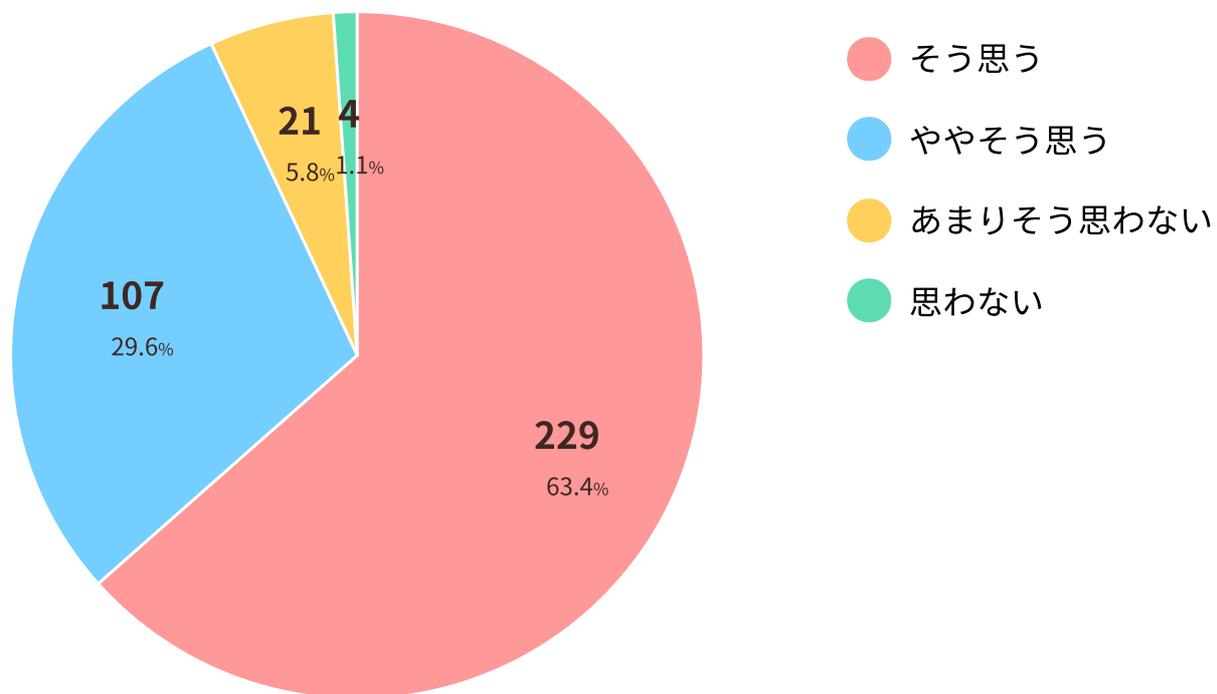
回答者数 361

Q11 学校・学年・クラスのやくそくをまもってせい  
かつしている。



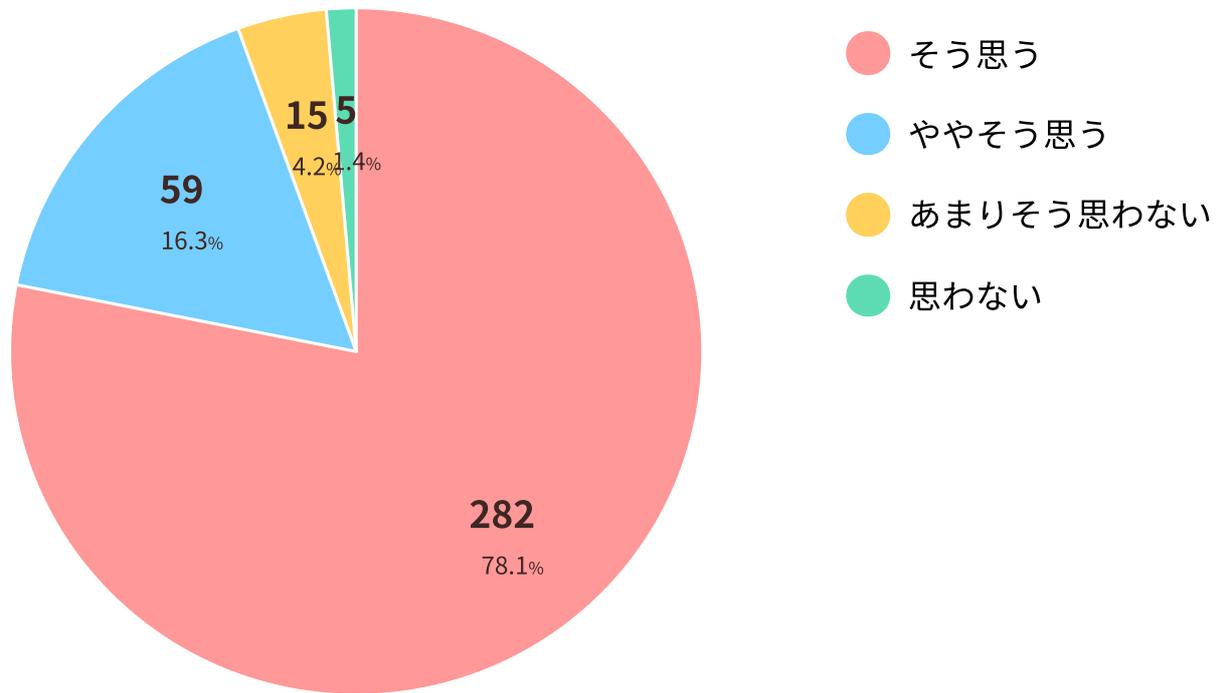
回答者数 361

Q12 係(かかり)かつどうや話し合い(はなしあい)かつどうには、すすんでさんかしている。



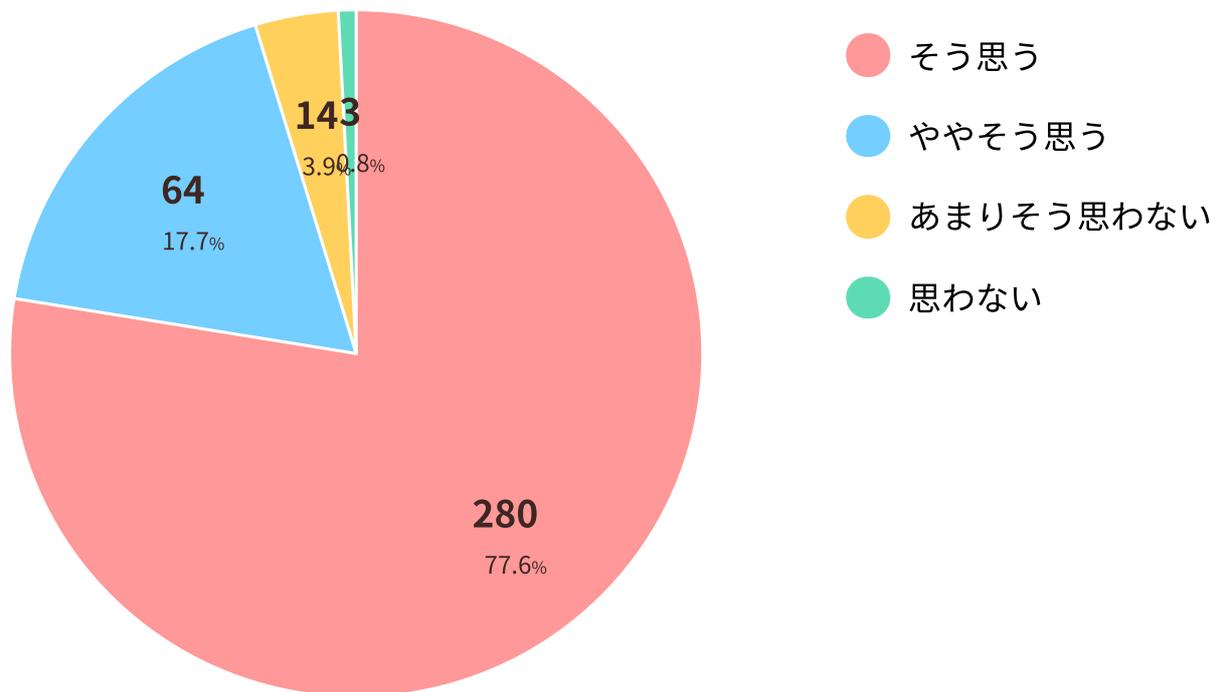
回答者数 361

# Q13 きゅう食(しょく)はのこさず食べている。



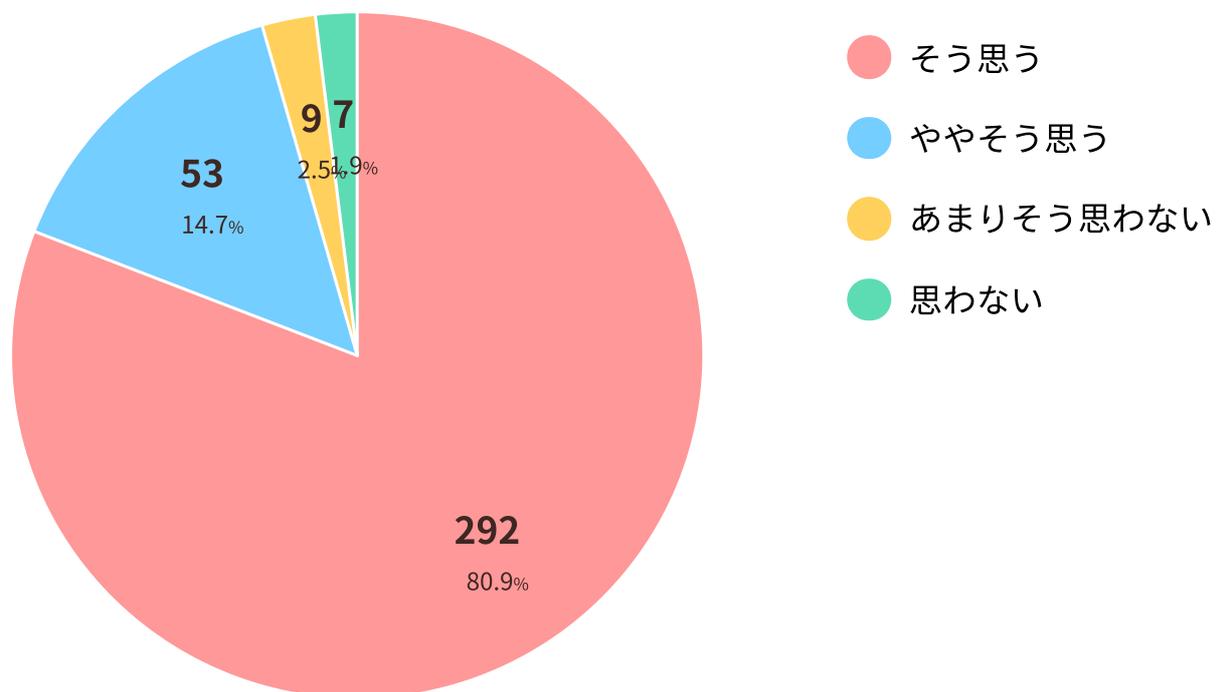
回答者数 361

# Q14 しゅくだいやかだいは、きちんとやっている。



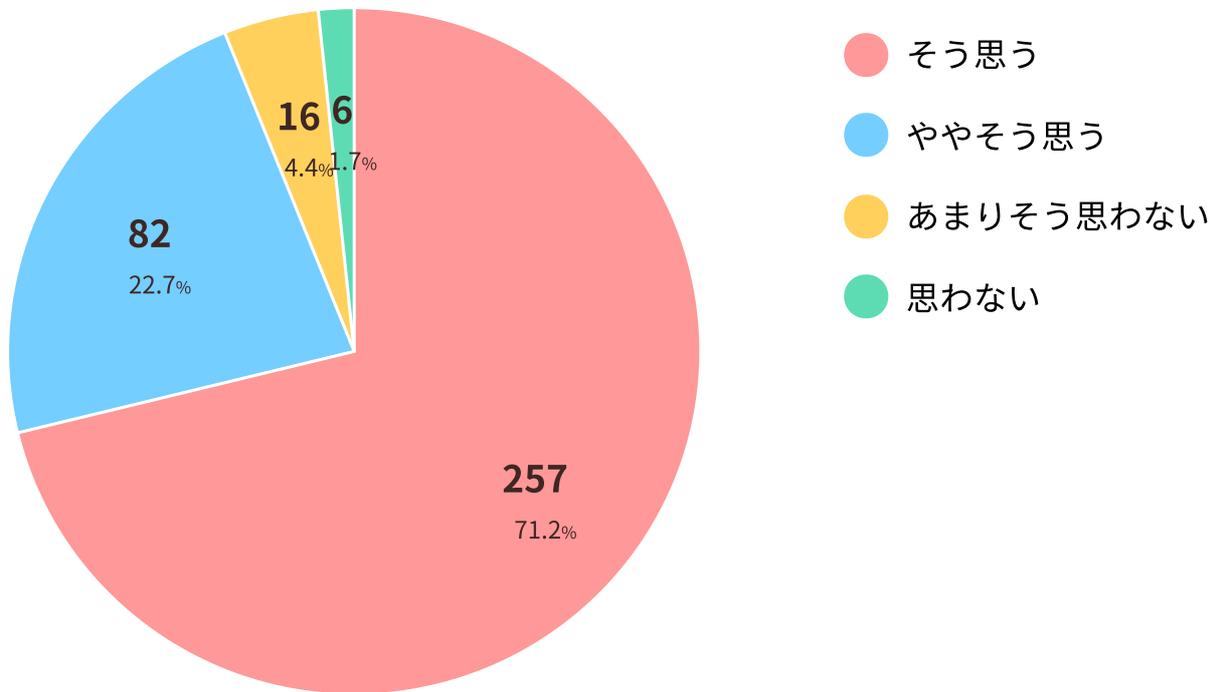
回答者数 361

# Q15 うんどう会など学校ぎょうじはたのしい。



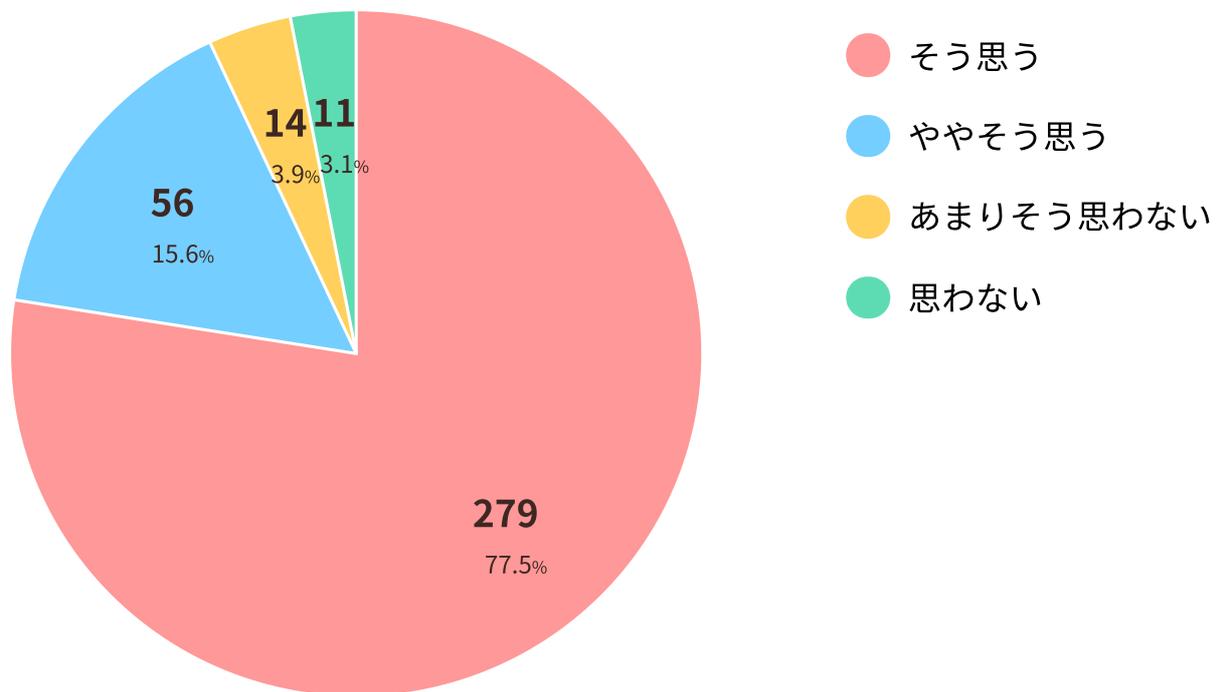
回答者数 361

Q16 学校のじゅぎょうでタブレットをつかうとべんきょうがよく  
わかり、たのしい。



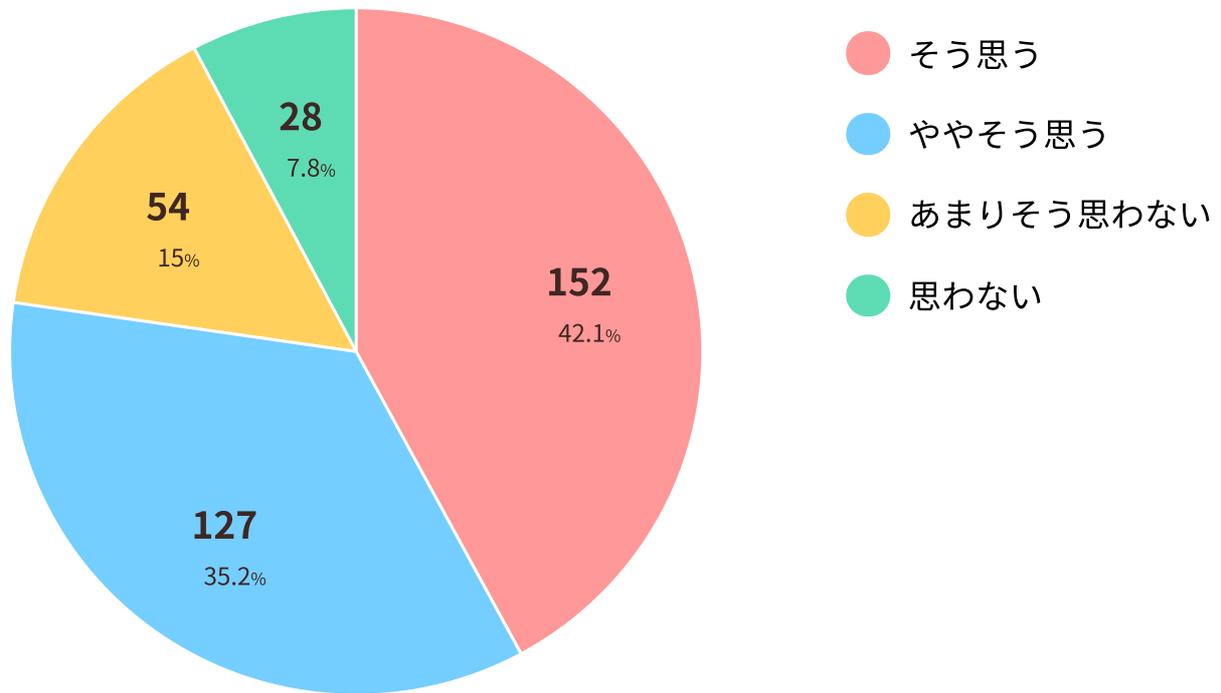
回答者数 361

# Q17 朝ごはんはきちんと食べている。



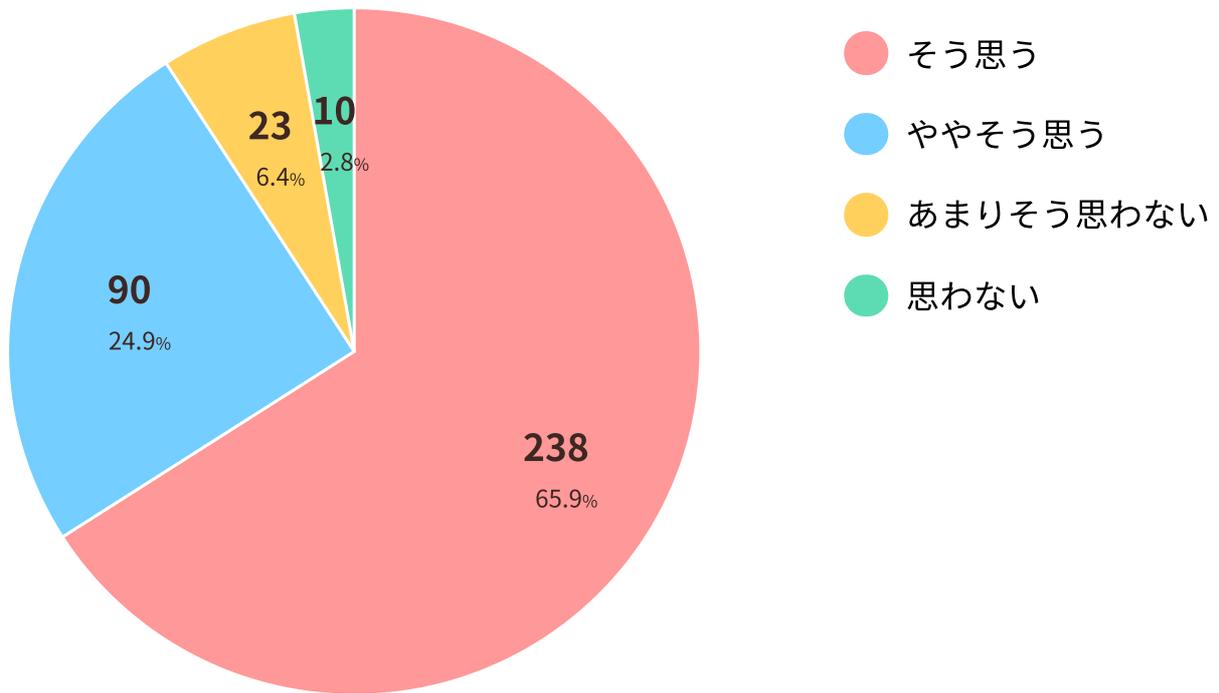
回答者数 360

## Q18 早ね・早おきをしている。



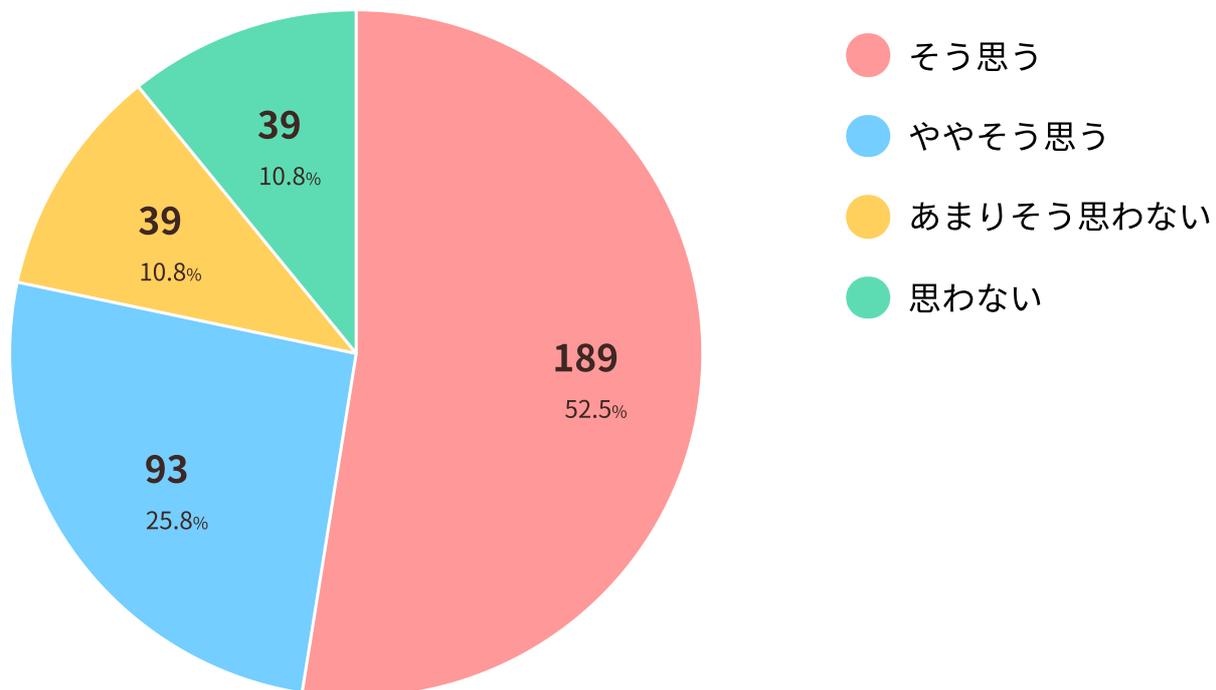
回答者数 361

# Q19 おうちの人とどんなこともよく話(はなし)をしている。



回答者数 361

## Q20 自分（じぶん）のことがすきだ。



回答者数 360